

世界銀行セミナー

～グリーンボンド～

温暖化対策の資金不足を解消する新たな担い手



2014年10月28日

国連環境計画・金融イニシアティブ

特別顧問 末吉竹二郎

グリーンボンドに寄せる期待

グリーンキャピタルの流れを作る

- ・地球温暖化などの問題解決は**時間との競争**に
CO2排出の**"Giga Ton Gap"**

Decline of Biodiversity(WWF) 他

- ・その競争に勝つためには、**大きな資金が必要**

IEA: 2050年までに、クリーンエネルギーに

+36兆ドルの追加投資が必要

債券市場: **49兆ドル**

機関投資家: 運用残高 = **80兆ドル**

GB発行残高: 358億ドル(14年7月) (ri)

ボンド(債券)の特性を活かす

- 償還日があり、原則、満期日に元本返済される。
利子が付く。金利で価格が動くが株価よりは安定。
- 格付けによる安心感。リスク判断がしやすい
- 資金使途の特定化／追跡がしやすい。
- 様々な投資家に受け入れられやすい

国際間の資金移動がしやすい

- 温暖化対策は地球規模でなければならない
- 国家間、地域間の格差が大きい
- この結果、温暖化対策の資金は「多国的機能」が必要
- GBは発行体、投資家、資金受け入れ先などで国家間、地域間の資金の流れが作り易い。

Public Finance

Public と Private の協働

<社会インフラ作りへの資金提供>

- ・温暖化対策
- ・自然災害対策
- ・グリーン産業の育成

投資手段の多様化

- ・発行体にとっての**新たな資金源**
- ・ESG投資家への**新たな投資先**
- ・投資家にとっての、**リスクの分散化**
- ・市場関係者にとっての**新しいビジネスチャンス**

GBの健全な成長のために

GB原則

The Green Bond Principles(GBP)

＜2014年1月スタート 現在55機関が署名＞

- ・投資家: CalSTRS, TIFF-CREF, Zurich Ins.
- ・発行体: 世銀、**EIB**, **Unilever**,
- ・アンダーライター: B of A ML, Citi, JPMorgan Chase, SEB

GB原則の中身

- ・透明性／情報開示／規範などに関わるガイドライン

<4つ柱>

①Use of Proceeds

②Process for Project Evaluation and Selection

③Management of Proceeds

④Reporting

Assurance: accuracy and integrity

second party consultation/publicly available

audits/third party verification

What is Green ?

＜GBPの考えるグリーンプロジェクトの例示＞

再生可能エネルギー

省エネルギー（省エネビルも）

持続可能な廃棄物管理

持続可能な土地利用（持続可能な林野／農業も）

生物多様性の保全

クリーンな交通機関

クリーンな水／飲料水

Green Washingは許されない

<Integrityの重要性>

- ・GBは地球温暖化など、人類と他の生物にとっての最重要課題の解決のためのモノ。
- ・そこに、**まやかしがあってはならない。**

<second party opinoの重要性>

- ・社債25社(110億ユーロ)中、16社が付保(RI)

日本への期待

世界の中の日本

<日本は世界トップクラスの金融大国>

- ・世界の問題解決に取り組む

健康で健全な地球があつての日本

- ・日本の競争力を高める

21世紀の競争原理は「持続可能性」

- ・レジリアンな地域社会をつくる

livable/walkable/bikable

「環境配慮」社債

＜日本政策投資銀行＞一日経新聞

- 数億ユーロを欧州で2014年10月に発行
- 「グリーンビルディング認証」付ビル向け融資
- 日本の金融機関による**GB第一号**

＜Toyota＞—RI

- 2014年3月に発行、13億ユーロ
- **Corporate GB第一号**

年金基金：彼我の差

< GPIFなどの公的年金基金や企業年金基金など >

- ESG投資への関心の無さ／薄さ

< 大学などの基金など >

- Divestmentへの関心の無さ

ESG投資の拡大

Global Sustainable Investment Review 2012
-GSI Alliance

世界 13.6兆ドル(全運用資産の21.8%)

EU 8.7兆ドル(49%)

米国 3.7兆ドル(11%)

アジア 0.6兆ドル(2.9%)

日本 100億ドル(0.2%)

～SIは、世界で“significant scale”になった～

自然エネルギーへの投資額

2004～2013年の累計(億ドル)

16,610 億ドル (約179兆円)

*中国:542億ドル 米国:339 日本:286

<REN21>

19,230億ドル(約208兆円)

<Bloomberg NE Finance>

もう一つのグリーンキャピタル

Green Investment Bank

＜グリーン事業に投融資する専門金融機関＞

- 英国: UK Green Investment Bank
- 米国: NY Green Bank
- 日本: グリーンファイナンス推進機構

2014年における国際会議

6月 ロンドン(UKGIB)

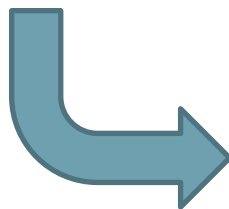
7月 パリ(OECD)

11月 ニューヨーク(NYGB)

川崎市の経験から何を学ぶか ①



■川崎の空(過去)
臨海部の工場から排出される煙が街を覆っていました。



■川崎の空(現在)

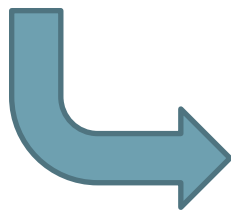


出展:川崎市環境総合研究所 <http://eri-kawasaki.jp/>

川崎市の経験から何を学ぶか ②



■多摩川の様子(過去)
泡であふれた多摩川



■多摩川の様子(現在)
水辺の楽校



出展:川崎市環境総合研究所 <http://eri-kawasaki.jp/>

やっと日本でも、、、

<日本版スチュワードシップコード、金融庁>


～責任ある機関投資家の諸原則～

投資と対話を通じて、

投資先企業の持続的成長を促し、顧客・受益者の

中長期的な投資リターンの拡大を図る

(約150機関が署名済み)

A photograph of a sunset over a mountain range. The sun is a bright yellow circle positioned just above the central peak of the mountains. The sky is a gradient of orange and yellow. In the foreground, the dark silhouettes of a city skyline are visible against the hazy background.

ご清聴ありがとうございました